

令和5年度 高知大学研究顕彰制度

《研究功績者賞／若手教員研究優秀賞／大学院生研究奨励賞》の受賞者

《研究功績者賞》

■ いけはら 池原 みのる 実（自然科学系理工学部門・教授）

池原氏は、第四紀と呼ばれる地質時代における地球環境変動を復元し、そのプロセスやメカニズムを解析する研究を行ってきた。特に、有機地球化学および安定同位体に基づく南大洋や黒潮域の古海洋変動研究において多くの成果を発表し、第四紀学の発展に貢献した優れた学術業績をあげたことが評価され、日本第四紀学会の「学術賞」を受賞した。同氏は、この5年間で45報を超える学術論文を発表するなど、海洋コア解析に基づく地球環境変動研究を活発に展開している。

《若手教員研究優秀賞》

■ なかやま 中山 なおひで 直英 （自然科学系理工学部門・講師）

中山氏は、生物多様性の研究基盤である分類学を基軸とし、海産魚類の多様性に関する研究を幅広く行っている。とくに、「ソコダラ」と呼ばれる深海性のタラの仲間を専門とし、このグループを中心とした多くの深海性魚類について、新種記載や学名の整理、分布パターンの解明などを精力的に行なってきた。過去3年間に公表した業績（査読付き論文14報；著書3件）のなかには、380ページ超の単著論文（北西太平洋産ソコダラ類の分類学的モノグラフ）、英文の学術書（単独で一章分を執筆）、一般向けの図鑑類などが含まれ、国内外で高く評価されている。

《大学院生研究奨励賞》

■ ^{ひの}日野 ひかり （応用自然科学専攻博士課程 3年）

日野氏は、海洋鉱物資源として注目されるマンガクラストについて、北西太平洋から採取された多数の試料を記載し、その成長構造や鉱物・化学組成の地域的特性を明らかにした。これらの研究成果は、筆頭著者として国際誌 Marine Geology などに3編の論文として掲載されている。本研究は、マンガクラストから読み取る古海洋環境解読への展開に加え、資源探査における有望エリアの選定への貢献が期待される。

■ ^{あきしば まなと}秋柴 愛斗 （農林海洋科学専攻修士課程 1年）

秋柴氏は、有馬型温泉水と呼ばれる沈み込む海洋プレート起源の成分を含むと考えられる水が、岡山県で上昇していることを明らかにした。この研究は、今まで数地域でしか報告されていなかった有馬型温泉水が、西南日本の様々な地域で見つかる可能性を示した。この研究は2022年度若手地下水研究助成奨励賞を受賞したことに加え、研究成果を国際誌に投稿中である。

■ ^{まさもと うらら}昌本 麗 （農林海洋科学専攻修士課程 2年）

昌本氏は、医薬品の原料となる環状スルフィドについて、有機溶媒や触媒などを用いない、環境に配慮した方法によって合成する手法を開発した。また、この研究成果を国際純正・応用化学連合（IUPAC）が主催する第25回物理有機化学国際会議（the 25th IUPAC International Conference on Physical Organic Chemistry）において発表したところ、発表者のうち優秀であった上位10%に与えられる ICPOC Prize を受賞した。

■ ^{やまさき けいこ}山崎 慶子 （医学専攻博士課程 4年）

山崎氏は環境省が実施している全国出生コホート調査の研究者として、妊娠中の母体化学物質曝露をテーマに研究を行っている。喫煙指標となるバイオマーカー、コチニンを用いて、妊娠中の母体コチニン曝露と胎盤重量および胎盤重量/出生体重比の関連性が子の性別により異なることを明らかにした。その研究成果は国際誌 Environmental Research に筆頭著者として掲載されている。

■ ^{おおなり とうま}大成 冬真 （農林海洋科学専攻修士課程 2年）

大成氏は、ポリγグルタミン酸（PGA）を改質したバイオ超分子部材：PGAイオンコンプレックスに関する研究を行なっている。本件部材が新型コロナウイルスから白癬菌に至るまでの超広域感染阻止能を有することを発表した第74回日本生物工学会大会ではトピックス賞（500以上の演題から3件にのみ授与；当該大会の唯一の学生受賞者）を中四国地方の大学関係者として初めて受賞した。また第12回日本生物工学学生優秀賞（飛翔賞）をはじめ、複数の学会賞受賞と4件の特許出願に至っている。

■ おはら 小原 まなか 真佳 (人文社会科学専攻修士課程 2年)

小原氏は、日本語の「係り結び」という構文の歴史について研究している。係り結びは、中世前期（院政期～鎌倉時代）以降に漸次衰退していくが、その詳しい過程や要因は明らかでない。そこで、係り結びの中から係助詞ゾを用いるものを取り上げ、中世にかけて、その特徴（前接要素・生起位置・語順変更の履行）に変化が生じていることを明らかにした。また、この成果について日本語学会で発表し、学会発表賞を受賞した。